

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102336
法人名	医療法人ビハーラ
事業所名	グループホーム ルンビニー
所在地	松山市安城寺町530番地1
自己評価作成日	平成26年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

夜間入浴をしているため、日中の関わりや外出の時間が作れる。
希望に添った支援（入浴したい日に入る・買い物に行きたいときに行くなど）
地域の方に助けてもらったり助けられる部分は参加して協力している。
夢プランの作成・実行（お墓参り・旅行）
介護甲子園にエントリー3年目、今年、二度目の一次予選を突破！二次予選で惜しくも敗退した。

利用者の一瞬一瞬を大事にして「最後まで笑って過ごせるような場所作り」に取り組まれている。利用者の誕生日は個別にお祝いしており、ご家族の都合をお聞きして一緒にお祝いできるように支援されている。職員は、利用者ご本人の写真のスライドショーDVDを作り、みなが見ながらエピソードを話したり、昔の親の思い出をお聞きしたり、又、利用者が生まれた年の出来事を職員が調べて、お話がはずむよう工夫されている。DVDは、ご家族にプレゼントされている。

今年度の運営推進会議時から、エプロンに三角巾を着けてお茶を入れてくださる利用者の「おもてなし隊」が活躍されている。利用者は人前に出ることでお化粧をする等、身だしなみにも気遣われるようだ。会議には、利用者、ご家族の代表1名、地域の公民館長や班長、民生委員の方が参加されており、今年度から、法人デイサービス管理者も参加されている。会議は、オレンジカフェの取り組みや防災対策等、「外部者に協力をいただきたい内容」を議題として挙げ、メンバーから意見や提案をいただきながら検討を重ねておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ルンビニー

(ユニット名) 1階

記入者(管理者)

氏名 五藤 恵

評価完了日

26年 10月 1日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・スタッフ全員で自分たちが作った理念を共有し実践している	
			(外部評価) 「一人ひとりの思いをくみ取って生活を豊かに」「人として当たり前のかかわりを支援」と理念を揚げておられる。又、職員交代や利用者の状況変化時を捉えて、ユニットごとに職員で話し合い行動指針を作っており、共有して理念の実践につなげておられる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・地域の行事に参加したり事業所の行事(夏祭り・消防訓練など)に地域の方にも参加してもらい日常的に交流している。	
			(外部評価) 地方祭の宵祭りには、町内の子ども達がちょうちん行列で来てくれて、介護度の高い利用者の居室も「らいねんじゃらいねんじゃ」と廻ってくれた。事業所敷地の前の道路には、市内バスの停留所があり、座ってバスを待てるよう入口の内側に椅子を置いておられる。又、霊場巡りするお遍路さんも通るため、お接待等もされている。法人では年2回、認知症地域フォーラムを開催しており、認知症の理解が地域に広がるように取り組みを継続されている。又、地域の認知症高齢者の現状やこれまでの事業所での取り組みを踏まえ、法人デイサービスの休日の場所を利用して、10月に初めて認知症カフェ「オレンジカフェだんだん」を開かれた。ご自宅で介護する方や事業所の待機者等も参加されて、介護相談等も受けられた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・地域フォーラムなどを実施し認知症に関わる諸問題を理解、協力していけるような関係を築いている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回開き、入居者の状況や事業所の行事を報告する。また地域の方からの質問に答えたり松山市や包括センターの方からの助言をホームに活かしている ・地域の方との交流が課題であったため、入居者様が『お接待』としてエプロン姿で地域の方におもてなしをしている。 <p>(外部評価)</p> <p>今年度の会議時から、エプロンに三角巾を着けてお茶を入れてくださる利用者の「おもてなし隊」が活躍されている。利用者は人前に出ることでお化粧をする等、身だしなみにも気遣われるようだ。会議には、利用者、ご家族の代表1名、地域の公民館長や班長、民生委員の方が参加されており、今年度から、法人デイサービス管理者も参加されている。会議は、オレンジカフェの取り組みや防災対策等、「外部者に協力をいただきたい内容」を議題として挙げ、メンバーから意見や提案をいただきながら検討を重ねておられる。地域の高齢者は「ひとりでご飯を食べることが多い」という情報を得て、オレンジカフェでは、ゆくゆくは一緒に食事を作って食べられるよう、取り組みたいと考えておられた。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームでの試み等相談している。相談に対し協力していただいている。 <p>(外部評価)</p> <p>ご家族の強い希望でご自宅に戻ることになった利用者のご自宅での介護や暮らしについて、市や地域包括支援センターの方にも同席をお願いして、一緒に話し合いをされたことがある。運営推進会議時、市の担当者から、感染症情報等、他事業所の状況や取組みを教えてもらうこともある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間以外は玄関の施錠は行っていない。身体拘束は研修により一通り学び、スタッフ間で話し合いながら取り組み拘束にならないような方法を探し出している。 <p>(外部評価)</p> <p>調査訪問時、玄関は網戸にしており、玄関の様子が見える位置に座る利用者が、職員に「誰か来たよ」と教えてあげていた。自室の掲示物を剥いだり傷めてしまう方には、少し高めの場所に掲示したり、たんすの衣服も高いところに収納されていた。足元に敷くタイプのセンサーはご本人が片づけられるため、ご家族が壁に取り付けるタイプのセンサーを用意している方もあった。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・虐待防止などについて学習していてスタッフ間で虐待にならないように注意を払っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・勉強会は行い理解はしているが、定期的に学ぶ機会は設けていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・契約時、解約時には、時間をかけて説明を行い、納得していただいている。不安や疑問に関してはその都度説明し理解していただいている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・外部評価で頂いた家族からの意見や家族会などでスタッフが席を外し家族たちで話す機会を設け匿名で意見をもらっている (外部評価) ご家族には、毎月のたよりやインターネットのブログ等で情報発信して、事業所の取り組みをより具体的に知ってもらったり、電話やメール、SNSでやりとりをしながら信頼関係を作っておられる。又、ご家族の来訪時には、職員は笑顔で迎え、利用者のエピソード等を交えながら話しやすいよう気を配っており、又、ご家族の不安等も解消できるように話しておられる。年2回の家族会時には、運営推進会議へ出席する家族を話し合いで決めており、半年ごとに交代するようになっている。2階ユニットと比較すると介護度が軽度な1階ユニットでは、年末に忘年会として、ご家族も一緒に道後友輪荘にて宿泊することを計画されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・常に柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。 ・慰労会の機会を設け、職員との交流を持つことで意見や提案を聞く機会を作っている。	
			(外部評価) 管理者は、これまで職員の声かけや対応について気になるような時には、職員に「何かあった？」と様子をうかがい精神状態に気遣い、「今のきつかったよ」と伝えるようにされている。職員からの相談があれば、「その後はどう？」と声をかけてサポートされている。今回の自己評価は、職員一人ひとりが項目に沿って評価を行い、正職員でまとめられた。他職員の自己評価を見て「私はマイナスな考えがある」と気付いた職員もあったようだ。今年の介護甲子園は1236事業所の中からベスト30事業所に選ばれ、玄関の入り口に賞状を飾っておられた。チャレンジすることで職員のチームワークがさらに良くなったようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・代表者は、度々グループホーム訪れて、スタッフと関わりを大切にし、常に働きやすい環境作りをしている。 ・スタッフの思いをくみ取って、チャレンジすることを支え見守ってくれている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・新人研修や個別で面談する機会を設け現在の悩みなどを聞く場面を作りその都度、指導・助言をするようにしている	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ・相互研修は出来なかったが、他事業所のスタッフの研修を受け入れ、置き土産(課題)を改善に繋げている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・入居、間もない方の様子観察について記録を残し、スタッフ全員で情報を共有し支援の方向性などをカンファレンスで話し合っている。様子観察のために寄り添ったり距離を保ったりと安心できる環境作りに入力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・入所する前に面談を行い本人・家族に話を聞き関係作りをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・まず何が今必要なのか、カンファレンスなどを通じてスタッフ全員で話し合いケアプランを作成し実施している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・常に何事も一緒にという気持ちで接して行動している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・本人と家族の絆を大切にするため面会時間を24時間可能にし、ご家族と何でも話せる関係作りをし、ご本人をご家族と共に支えていけるようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ・その人から行きたい場所・会いたい人を聞き、夢プランとして入念な計画のもと、実行に移している。 (外部評価) 利用者との会話の中から「お墓参り」の希望を聞き、「夢プラン」に挙げて、ご家族も一緒に伊方町等までお参りに出かけたケースがある。利用者から子どもの頃よくおやつに食べていた菓菓子「松の露」が懐かしいと聞き、職員がインターネットで調べて市内の本町に買いに出かけられたこともある。ご本人は懐かしがられたが、思っていたより硬かったようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・利用者同士の関係を把握し一人ひとりが嫌な想いをせず楽しく過ごしてもらえるよう座席などの環境作りに努めスタッフが間に入るよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・亡くなったかたの家族に対してルンビニー便り(月1回)を送付したり(必要な方)夏祭りなど特別な催し物などに案内状を送付している。 ・偲ぶ会のイベントを行いお誘いしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・日々の生活の中の会話のはしばしに出てくるキーワードを聞きのがさぬように努め、記録にも残しスタッフ全員で共有し支援に繋げている。困難な場合はスタッフの意見が先に出ることなく本人本位に考えるようにしていきたい。 (外部評価) 調査訪問時、懐かしい歌謡曲の番組を見たり音楽が聞こえており、又、職員は、利用者との会話のところどころに懐かしい名称やエピソードを織り交ぜて言葉をかけ、利用者のお話を聴いておられた。又、利用者の興味のある話題や、冗談等も交えて明るく、笑顔と笑いのある暮らし作りに取り組みされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・管理者が収集した情報が常に閲覧できるようになっているのでそれを読み、または日々の会話の中で得られた情報などで把握し共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) ・1人ひとりの過ごし方については本人に任しているが心身状態などの異常は表情や訴えバイタルチェックにより早期発見に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			<ul style="list-style-type: none"> 日々の生活の様子観察などで得た問題点や家族と本人の要望をふまえて三ヶ月に一度カンファレンスでスタッフ全員で話し合い介護計画を作成している。 	
			(外部評価)	
			<p>3ヶ月の介護計画見直し時期に合わせて「立案シート」にて「心身の力の発揮」「私らしさ」「安全 健やかさ」「安心・快」等の情報収集をされている。2階ユニットの介護度の高い利用者には、日々の様子を踏まえて職員が「～だろっか」と話し合い検討されている。介護計画と並行して「夢プラン」も作成されており、個々の希望を叶えるために計画を立て、ご家族と協力し合って取り組まれている。</p>	<p>今後はさらに、利用者個々と地域の人や場とつなげるような計画作成にも工夫して、利用者の暮らしを地域に拡げていかれてほしい。</p>
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			<ul style="list-style-type: none"> 対応した結果、良かったこと・悪かったことそれぞれを記録に残し情報を共有している。スタッフの気づきの記録には赤波線を引いている。それを見直しに活かしている。 	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			<ul style="list-style-type: none"> 1人ひとりの心身の状態に合わせた多種サービス(訪問マッサージ・フットケア・音楽ボランティア)の受け入れに努めている。 	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			<ul style="list-style-type: none"> 地域の催し物には参加できるときは参加している。近所の方がボランティアで来てくれ話し相手にもなっている。また、ピアノボランティアが月二回程度来ていただき、入居者のほとんどの方が一緒に懐かしい曲などを楽しく歌っている。 	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	<p>・いつもと違う症状が生じた場合、まずDrから家族に連絡し受診の了承を得る。次にDrからかかりつけ医に状態説明などを行い受診している。</p> <p>週2回、母体病院の医師の往診があり、終末期には毎日様子を診に来てくれている。状態変化等があれば、ご家族と話し合いの場を設けておられる。「今後できること」については、医師である法人代表者から、入院や施設利用等も含めて提示され、又、事業所には24時間は看護師が常駐しないことも説明して、ご家族と一緒に考えるようにされている。昼食時、職員の一人が利用者が縫ってくださった肩かけかばんをかけて、中から食後薬を出して服薬支援をされていた。</p>	
			(外部評価)		
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)		
			・”いつもと違う”気づき、異変を看護職員に相談し入居者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)		
			・入院が生じた場合Drを通じて協力関係のある医療機関にお願いしている。その際介護サマリーなどで情報を提供している。退院時期については先方の病院に任している。お見舞いや電話にて状態説明を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)		
			(外部評価)		
			<p>・状態が変化するたびにできるだけ早い段階から家族・Dr・看護師・スタッフで話す機会を作り今後の方針などを提案し決めている。</p> <p>利用者の介護度が高くなった場合は、ご家族にも状態を説明して2階ユニットへ移動するようになってきている。ご家族は最期まで事業所で過ごすことを希望する方がほとんどで、最期まで過ごせる場としての事業所に安心を感じておられる。亡くなった後、職員は、ご家族と一緒に湯灌もされる。調査訪問時、90歳を超える利用者が亡くなられ、利用者ご本人が着て帰る服をご家族が取りに帰っている間、職員が代わりに利用者の手を握って寄り添っておられた。お見送りする際には、1階利用者と職員が玄関前に出て、みなで合掌して見送られた。昨年、事業所で看取った利用者のご家族が集まる「偲ぶ会」を夏祭り時に併せて開いており、今年は7～8名の参加があった。みなで故人の思い出話等されたようだ。</p>		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・定期的に救急法の訓練を受けている。急変の場合はすぐにDrに連絡して指示を仰いだり受診に繋げている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・年二回いろいろな場面・時間を想定して避難訓練を行っている。その際地域の方にも連絡し、防災会会長や防災士のかたにも参加、協力していただいている。 (外部評価) 地域の自主防災会の集まりに職員も参加されている。避難訓練時の消防署のアドバイスをもとに、火災時には一時、駐車場に避難してから隣接のデイサービスへ避難する。又、地震発生時には、一時、駐車場に避難して津波発生を踏まえて、2階ユニットへ避難することに決めておられた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ・1人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや(排泄時)対応をするように努めている。 (外部評価) 利用者の一瞬一瞬を大事にして、「最後まで笑って過ごせるような場所作り」に取り組まれている。利用者の誕生日は個別にお祝いしており、ご家族の都合をお聞きして一緒にお祝いできるよう支援されている。職員は、利用者ご本人の写真のスライドショーDVDを作り、みなで見ながらエピソードを話したり、親の思い出をお聞きしたり、又、利用者が生まれた年の出来事を職員が調べて、お話がはずむよう工夫されている。DVDは、ご家族にプレゼントされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・危険をおかさない限り自己決定を促すよう～しますか？～行きますか？のような声掛けをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ・1人ひとりのペースを大切にしその日の過ごし方、希望に添えるように支援し予定が決まっても臨機応変に内容を変更したり希望を聞ける環境作りをしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) ・その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう化粧をしたり服を選んでもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・食事が楽しい時間になるよう栄養・バランス・いりどり・季節感などを取り入れるよう工夫している。また調理の準備・配膳や食後のお盆拭き・食器洗いなどできるだけみんなで分担しながら一緒に行っている。	
			(外部評価) 調理専門の職員を2名配置して、利用者の食べたいもの等を聞き、買い物して食事を作っておられる。手作りのごま豆腐は、利用者に大好評で、「ルンビニーの味」になっているようだ。お寿司のお好きな利用者が多く、敬老の日には寿司職人来てもらって、目の前で握ってもらい雰囲気も楽しまれた。又、回転寿司等に出かけることもあり、利用者は普段よりも食欲が増すようだ。調査訪問時には、職員と一緒にいなり寿司を作る方や、食器やお盆をていねいに拭いている方も見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・1人ひとりが食べやすいようおにぎりにしたり食べやすい大きさにカットするなど工夫している。一日に必要な水分量が確保できるよう献立作成時には毎食汁物を取り入れている。食欲の出るよういりどりを考え盛り付けの工夫もしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・毎食後はほぼ全員スタッフが見守りしながら口腔ケアを促している。歯、又は義歯などに異常を発見した場合はDrに相談し訪問歯科での治療を受けている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどのの方が尿意がありトイレに行ったり、訴えにより誘導したりしている。失禁がある方、間隔の空き時間が長い方などは前もって声かけしトイレ誘導を促している。 	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食は全員牛乳・バナナを摂っている。 ・昼食前にはほぼ全員で軽めの体操をしている。 ・ヤクルトを飲むことで、便秘が軽減した方も居る。 ・排泄の状態に合わせて、飲み薬や座薬を使用している方も居る。 	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間入浴を行っている。一人につき二日に一回、中には毎日入浴している人もいる。入浴拒否の人もいるがタイミングを見て誘導し入浴が出来ている。 	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・日中一人ひとりの状態をみて、また本人の訴えにより居室で休んでもらっている。(夜間の不眠にならない程度に) 	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・新しい薬や臨時で処方された薬がある時は状態の変化に気を付け異常がある時は記録に残しDrに報告している。また、副作用については勉強していきたい。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・ドライブ、買い物、喫茶店、ゲーム、おやつ作りなど、その日の希望や状態に合わせて活動している。 ・飲み物は、全員が同じものではなく、何が良いのかを個々に選択してもらっている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・その日の提案で近郊へドライブする機会は増えた。また季節に応じた外出(花見など)の機会をスタッフが前もって計画しそれに沿って行っている。その際は家族に案内し参加を促している。	
			(外部評価) 事業所周辺にはスーパーやコンビニ等もあり、調査訪問時には、職員が利用者の車いすを押してドラッグストアへ買い物に行かれていた。信心深い利用者が多く、伊予十三佛霊場巡拝を支援されており、納経帳に印をいただく方もいる。2階ユニットは「日曜日は外出する日」と決めて支援しており、東温市にコスモスを見に行ったり、堀之内公園に神輿のかき比べを見学に出かけておられる。介護度の高い利用者もリクライニングできる車いすでお花見に出かけたり、夏祭りを楽しめるよう支援されている。2年前には「修学旅行に行っていない」「パンダが見たい」という利用者の声から、神戸市の王子動物園へパンダを見に日帰り旅行された。利用者はとても印象深かったようで、現在も、廊下に写真を掲示しており、時々話題にして楽しかった思い出話をされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・現在一人だけ家族からお金を所持している。しかし、管理が困難なため事務所に預かっている。(管理はできないが)買い物に行くときには、お金を渡し同行して好きな物を選んで買っている。時々他の方にもお金を持ってもらい買い物支援も行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・手紙は住所などはスタッフが記入し入居者さんが絵などを添えて文面を書いて家族に送っている。 ・贈り物が届いた時には、電話をかけお礼をつたえてもらっている。電話がかかってきた時は本人に取り次いでいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・和室にTVを置き、みんなで時代劇・歌謡ショー・ビデオを見たりカルタ取り・ゲーム等をしている。また、ウトウトしたりというくつろぎの時間も大切にしている。 ・一週間に一回は食卓の上にある季節の花を活け、それを見て季節を感じ取ってもらっている。光が差し込むときにはロールカーテンを閉めて調整している。	
			(外部評価) 廊下から居間にかけて樋を伸ばしてそうめん流しを楽しまれたり、敬老の日には居間にステージを作って法人代表者がマジックショーをして利用者を楽しませてくださった。北側に面した台所は、横広く取った窓から自然光が入り明るく、田畑の様子がよく見える。以前畳スペースだった仏壇がある和室は、クッションフロアを貼って改修して、ソファをL字に配置し、テレビを見たり談笑するくつろぎの間になっている。1階にはピアノが置いてあり、高校の音楽の先生がボランティアで続けて来てくれており、懐かしい曲を弾いてくれる。敷地内には畑があり、ご家族の方の指導のもと野菜作りをされている。今夏はナスがたくさん取れ、利用者は麦わら帽子をかぶって収穫し、メニューに工夫してみनाで楽しまれた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ・色々な場所に椅子やソファを置き、一人または気の合う入居者さん同士で和やかな会話ができるようにしている。玄関先の椅子に座って外の景色を見たり日向ぼっこを楽しんでいる方もいる。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ・ほぼ全員が自分の居室であることを認識できている。使い慣れた家具などを持って来られているが居心地よく過ごしているかはわからない。時に持って来られたアルバムを一緒に見たりすることもある。	
			(外部評価) ぬいぐるみがお好きな方は、ご家族が持って来てくれて飾っておられる。出窓のところに突っ張り棒を付けて、ご自分で洗濯物を干している方もある。又、ご自宅で使っていた鏡台に化粧水・乳液を置いて、入浴・洗面後に使用する方や、ご家族の写真や外出時の写真を飾っている方もあった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) ・まず転倒しないよう危険物・障害物を取り除き見守りしている。誰もが歩きやすいようフロア・廊下が広い。日めくりを見て月日や季節が分かる人が多い。	